

# 平成6年度 和歌山県名匠

## 【<sup>ふな</sup>船<sup>だい</sup>大<sup>く</sup>工】

<sup>かり</sup>狩<sup>や</sup>谷<sup>ひで</sup>英<sup>たか</sup>孝

【現住所】美浜町

【生 年】昭和8年

### 業績及び経歴

昭和8年日高郡美浜町で生まれる。中学校を卒業するとすぐに師である父狩谷市松氏の船造りの世界に入り、今日まで46年余り、この道一筋に精進している。

近年、FRP(強化プラスチック)船が普及しているなか、地曳き網漁法に関しては、今なお木造船が主流を占めている。

氏は、木造船の材質である檜及び杉の選定から、船の完成までの全製作工程を一人で行っている。

船の製作は、発注者から船のデザインだけの依頼を受け、長年の経験と勘で、図面や機械も用いず手作業で行っており、時には、丸一日製作に没頭するなど、船造りに対する情熱がうかがえる。

製作過程で最も神経を使うところは、「みおし(船首台)」で、この部分が船の中心であり、船のバランスをとる箇所である。また、船体の加敷部分を、火も使わないで流線に曲げていき、寸分の狂いもなく張り合わせていく作業は、熟練した技術が必要である。

氏の製作した船の数は、現在までに約60隻で、美浜町から印南町あたりの沿岸には、雄大な船体を横たえている木造船が、多数見受けられる。